

ミラノ市の広場事業 オープン・スクエア第Ⅰ期



プレイス・ソリューションズ・グループ合同会社代表社員 関谷 進吾

1. はじめに

本稿では、2018年9月より、ミラノ市のまちなかに広場を展開するミラノ市のオープン・スクエア事業を取り上げたい。本事業は、市の上位計画である「ミラノ市2030年」の基本構想に則り、ニューヨーク市を拠点とする全米都市交通行政官協会（National Association of City Transportation Officials：NACTO）および非営利コンサルタント団体ブルームバーグ・アソシエイツ提携の下、市内の全ての近隣地区に、ひらかれた広場を整備することを標榜する取り組みである。

本事業の意図として、第一に、街路と近隣広場を活力ある社会的交流の場として再定義し、生き生きとした生活空間へと取り戻していくことが挙げられている。第二に、特に子供、高齢者、障害者に注視し、歩行者とサイクリストのための安全性を向上すること。第三が、恒久的な整備を実施

する前に、低予算の仕器を導入し、地域主導で、これまでにない市民との協働事業を推進することにある。

一般的にミラノ市と聞くと、まちなかには、既に広場が整備されているのでは、と疑問に思う人も多いかもしれない。しかし、本事業に携わったブルームバーグ・アソシエイツのアンドリュー・ウィリーシュワルツ氏（ニューヨーク市交通局の広場事業であるプラザプログラムを始動）へのインタビュー（2018年9月）によると、「ミラノ市の広場の多くは、金銭を支払う飲食店でも利用しない限り、無償で滞留できる機会は実質的に少なく、真にひらかれた広場は少ない」という。都心部から離れた地区も含めた市域において、より活発で健全な公共空間を整備することにより、生活の質を向上し、社会的交流の場をもうけ、近隣の個性を育もうとする、本取り組みに着目したい。

2. オープン・スクエア事業の概要

2-1. デルガノ広場

ミラノ市では、これまでに駐車スペースあるいは交差点として利用されていた5つの箇所を再編し、広場が形成されており（図表1）、本事業の第Ⅰ期に位置づけられている。いずれの広場も市民より広場整備の要請を受けて整備されたもので、地元の意向を反映した事業となっている。これは本事業が、近隣の需要に応じた新しい市民と自治体との協働の姿を構築することを意図しているためである。

初動期にあたる2018年9月の社会実験で整備された2つの広場は、デルガノ広場とアンジルベルト二世広場である。その黄色と白の円の塗装パ



図表1 ミラノ市オープン・スクエア事業第Ⅰ期に市内に整備された広場の位置

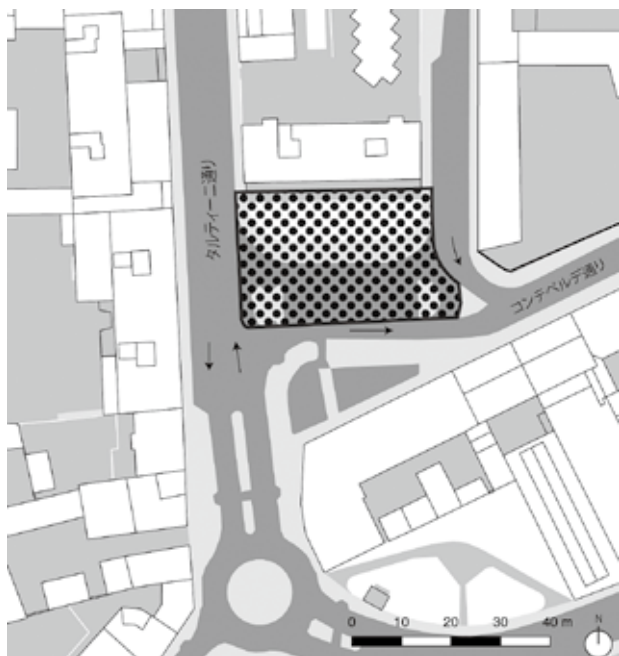
（出典：ミラノ市公開データより作成）

タンから、愛称は水玉模様（伊語でポア）である。デルガノ広場は、ミラノ市旧市街より北に5km辺りに位置しており、社会実験は、2018年9月～12月まで実施されている。9月3日に道路線形の一部が変えられ、新たに標識と3台分の駐輪ラックが設置されている。同月17日に、30の植栽プランターと低木が導入され、18日に、市民参加型の道路塗装イベントを実施している。20日にベンチ10台、卓球台2台、ピクニックテーブル2台が設置され、22日の「世界のカーフリーデー」に仮設広場の完成形を遂げている。

仮設広場の配置計画に焦点を当ててみると、広場の南側に面する道路を東方面の一車線一通行に制限しながら、西側のタルティーニ通りと東側のコ

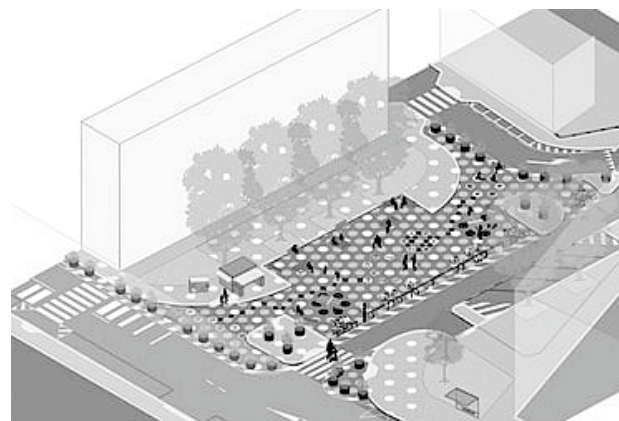
ンテベルデ通りの既存車路を確保する内容となっている（図表2）。北側の歩道は、駐車場の転用により歩行化された広場とつながり、そこにシェアサイクルと通常の自転車ラック、座り場、児童用遊戯エリア、卓球台、プランターが設置されている（図表3～5）。地域住民、観光客、その他の主体による活動を支えるため、脇道の一通道路の反転も実施している（レグノン通りの一部区間）。

仮設広場を整備してから約一ヶ月後にあたる10月31日に同市が実施した調査によると、広場西側のタルティーニ通り沿いの歩行者数が、1.5倍となり、インタビューイの内、86%が歩行化に好意的な評価をし、72%が広場に訪れる機会が増えたと答え、84%が仮設広場は恒久化されるべきと答えた。35%は一時間以上の時間を過ごしたという。ただし、51%は維持管理と清掃が課題と答える一方で、89%は、最終的には、緑化空間と遊戯空間を増やして欲しいという意思を示した。



図表2 デルガノ広場平面図

（出典：ミラノ市公開データより作成）



図表3 デルガノ広場アクソメ計画図

（出典：ミラノ市）



図表4・5 デルガノ広場の従前（左）と従後（右）の様子

（出典：ミラノ市）

2-2. アンジルベルト二世広場

同月に平行してミラノ市の緑週間にあたる2019年9月29日に仮設広場が実装されたのが、ミラノ市の旧市街より、東南方向に5kmに位置するアンジルベルト二世広場である。本事業により、北側の歩道から交通島にかけて、歩行者優先化することにより一体的広場が形成され、東側のコマッキオ通りには自転車レーンが新たに整備されている。約80の植樹プランターにより、中木から低木までが組み込まれ、デルガノ同様の機能が什器と塗料パタンによって、滞留活動をゾーニングするようにして配備されている（図表6～9）。

広場化の手順は、以下の通りである。9月5日に、シェアサイクルを設置し、同月14日に、道路線形の一部を変え、新たに標識と3台分の駐輪ラックを設置している。21日に80の植樹プラン

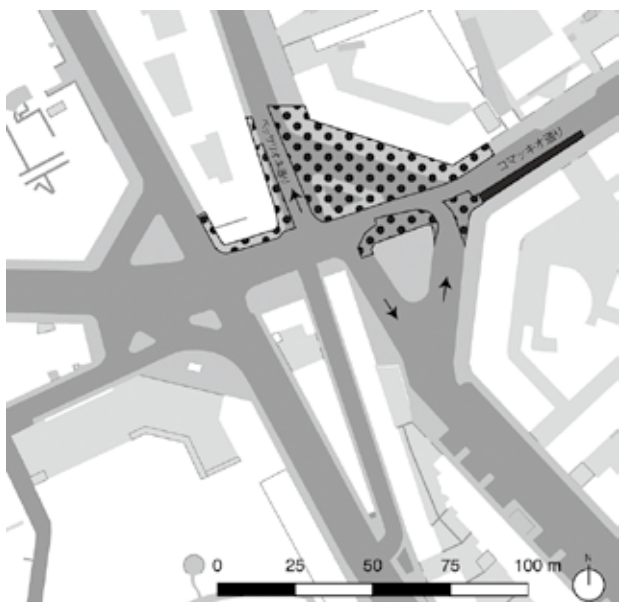
ターを配備し、24日に、15台のベンチと卓球台2台を設置し、次日の25日に、参加型の道路の塗料イベントを実施している。

10月31日の調査によると、インタビューイの71%が歩行化に賛成で、52%が広場をより訪れるようになり、70%が広場の恒久化を望んだ。71%が歩行者の増加による事故を懸念する一方で、55%がより多くの緑と遊戯空間を求めた。歩行者は3割増え、日中のサイクリストは83%増えた。

3. オープン・スクエア事業の導入方法

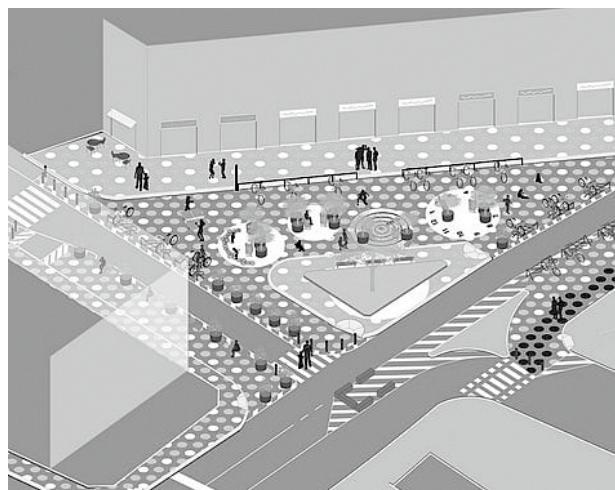
3-1. 空間操作の種目

本事業は、ここ十年の間、バルセロナのスーパーブロック、ニューヨークのタイムズスクエア、パリの自転車促進事業など、世界の主要都市でみられるタクティカルアーバンイズムと呼ばれる暫定的かつ低予算の操作により新たな公共空間を創出す



図表6 アンジルベルト二世広場平面図

（出典：ミラノ市公開データより作成）



図表7 アンジルベルト二世広場アクソメ計画図

（出典：ミラノ市）



図表8・9 アンジルベルト二世広場の従前（左）と従後（右）の様子

（出典：ミラノ市）

る方式を取り入れている。タクティカルアーバンニズムは、長期政策の中で、都市空間の利用方法に変化を与えることで、近隣を変革させ、活発な主体を引き出す役割を担うものとされている。広場を恒久的に整備する前に、試行的に広場を組み替えることで、解決案を見出し、意思決定を支援しているという（図表 10）。ミラノ市では、大きく以下の5つのツールを活用している。

(ア) 新たな広場・歩行空間の創出

道路の大幅変更と車路のアクセス制限の試行を通じて、新たな公共空間を創出すること。

(イ) 低未利用あるいは什器実装前の公共空間の活性化

什器の実装、装飾、新機能導入により、社会性と文化的集团的活用を促進することにより、空間に価値と活力を与えること。

(ウ) 歩行空間の拡張と安全性の強化

車線を狭め、低利用の駐車空間を撤去し、交通の静穏化、30km の速度制限、学校や幼稚園のために交差点を柔らかい歩行と自転車モビリティのための再編することを通じて、モビリティのために空間を合理化すること。

(エ) 自転車ルートの実装

30km の速度制限エリア、一方通行、都市計画上で定められた区間において、軽量の既成工具と標識を用いて、自転車利用を促進すること。

(オ) 駐車エリアをパークレットとして利活用

30km の速度制限が敷かれる車道の駐車エリアを全ての人々にひらかれた小さな公共ラウンジ、交流の場へと転用すること。

3-2. 什器・資材

本事業では、ミラノ市が什器・資材の必要数を提供し、実装することとなっている。自治体を提供する什器の他にも、各エリアの条件に合わせて、既存の什器・資材に変更を加えること、あるいは他の什器を組み合わせることも可能となっている。ミラノ市は、主に以下 11 種類の什器・資材を提供している。

(ア) 道路塗装用の塗料

(イ) ベンチ

(ウ) ピクニックテーブル

(エ) 卓球台・遊び用テーブル

(オ) ペタンク・ボーリング

(カ) 地面遊び

(キ) 自転車ラック

(ク) 植栽カゴ

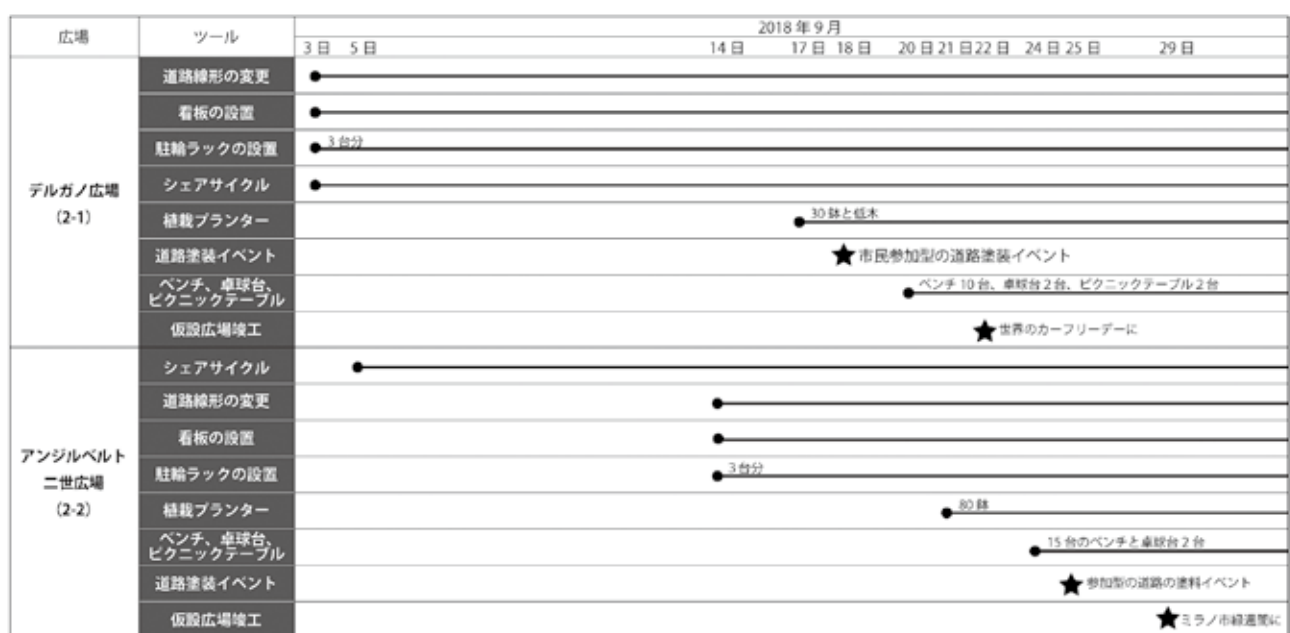
(ケ) 植栽鉢

(コ) 歩道拡張

(サ) 道路標識

3-3. 協定

本事業では、各実施エリアについて、申請者（地域側）と自治体間で協定を結ぶ形式をとる。協定



図表 10 オープン・スクエア事業第Ⅰ期初動期のツール

(出典：ミラノ市資料より作成)

は、自治体と申請者である市民団体間で定められた目標、広場整備により期待される効果、維持管理の手法等が明記された書面の契約を通じて結ばれる。ここでいう市民団体とは、任意団体、協会、教育機関、委員会、財団、慈悲企業等を指す。協定の草案は、市民団体と自治体の協働で作成され、主に目標、実行計画、手法、制限、各関係者の役割、保険補償と付嘱的義務、支援形態、契約期間が定められている。

4. オープン・スクエア事業の 選考要件

4-1 1. 敷地の選定要件

敷地選定は、地域側から提案されるものとし、地元のステークホルダーからの支援を十分に得られている案件を優先するようにしている。これまでの取り組みの中で、留意された点として、以下が挙げられている。

- (ア) 複雑で冗長、あるいは歩行者やサイクリストにとって特に危険な道路
- (イ) 駐禁エリアにおける不定期な駐車が集中する区域
- (ウ) 歩行空間あるいは児童のための遊戯空間が不足している区域
- (エ) 公共交通の停留所付近
- (オ) 学校や他公共サービス付近
- (カ) 商業活動が活発なエリア
- (キ) 近隣単位の活動が活発な区域

4-2. 事業の要件

空間操作を行う上で、以下の要件を満たさなければならないとされる。

- (ア) 空間操作の種目（3-4）に示される要素から構成されなければならない。
- (イ) 公共交通、特に路面電車やバス路線を妨げることがあってはならない。
- (ウ) 緊急用の避難車両用の経路が確保されていること。
- (エ) 既存の道路法を遵守しており、道路網を変更する場合は、規定手順に従って評価されること。

4-3. その他の提案の要件

広場化の提案要件として、第一が、あらゆるユーザーを考慮した仕様とし、歩行や自転車環境を改善する要素を組み込みながら、公共空間の利活用の可能性について、目標を定めた事業とすること。第二が、区域が抱える課題を解決するために、どの手法が適応するのか明確に特定することである。第三が、以下の手法、制約に従うものとすることである。

- (ア) 単一のオープン・スクエアの建設費用は、5万ユーロ（2019年12月時点で610万円相当）の予算を超えてはならない。
- (イ) 自治体が什器、看板、安全器機等の購入、手配を担うこと。素材につき、市民が、自ら資源や技術を展開しても良い。
- (ウ) 協定に示される活動範囲内であれば、寄付金等の助成を受けることができること。

5. オープン・スクエア事業の 留意点と利点

5-1. 留意すべき点

事業当初よりアドバイザーを担当しているデメトリオ・スコペリッティ氏によると、以下の3点を留意するべきだという。

第一に、広場の敷地選定が特に重要である点だ。地元の政治家等、コミュニティの意向をもとに選択していくことが最も肝要であり、自らDIYで実施していくことは、好ましくないという。縦割り組織を超えて、複数の部局やコンサルタントと提携し、鍵となる人材を巻き込むことも求められる。

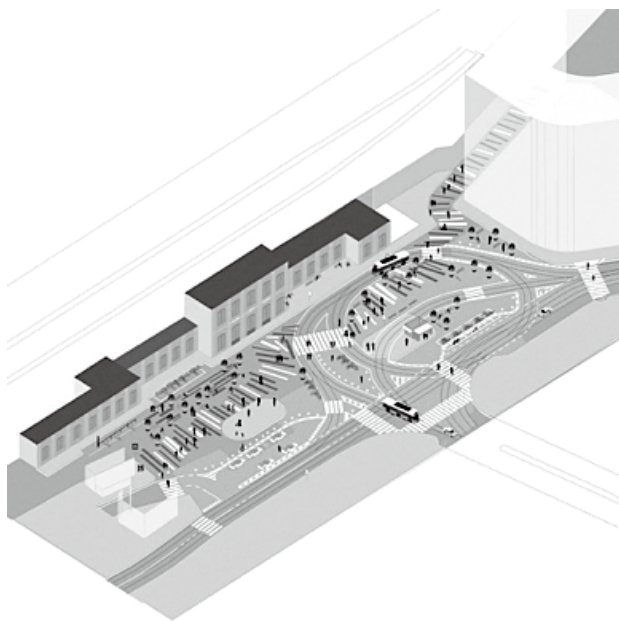
第二に、実装が安易で、維持管理も容易である簡易な什器・資材を用いることである。信号機も一つの強力なツールになり得るという。デザインワークショップや平面図、イメージ図などを活用して、最良の発想を組み立てることが求められる。また、動画撮影や交通流動調査、調査、インタビュー等を実施して、従前従後のデータを活用して事業を組み立てることも重要である。

第三に、近隣コミュニティとの交流を重ねて、支援体制を強化することである。ボランティアなどを活用しながら、維持管理に注力し、大きなイベントを主催し、目に見える方法で取り組みをひろく周知することも大切である。

5-2. 利点

全米都市交通行政官協会（NACTO）によると、オープン・スクエア事業には、以下の2つの視点から整理できる利点があるという。近隣側の視点では、自転車と歩行空間を奨励することにより、人々に地元のサービス、店舗利用を促すことになり、近隣が活気づき、小規模商店はより多くの視認性を獲得し、客足増加につながる点である。住民の身体活動が増加するのみならず、車の運転手、サイクリスト、歩行者間の接触事故のリスクを低減することができる。子供、高齢者、家族、地域団体にとっては、大事な活動拠点である集会の場が提供されることである。

自治の視点からみると、本事業によって、ミラノ市では、特に都市計画局、交通局、警察局、緑化担当部局、交通機関、タクシー委員会、近隣担



図表 11 ポルタジェノバ広場アクソメ計画図

(出典：ミラノ市)



図表 12・13 ポルタジェノバ広場の従前（左）と従後（右）の様子

(出典：ミラノ市)

当部局等、他部局間の協働関係を促進したという。より統合的な手法が求められることから専任の都市デザイン部局も設けられた。民間では、ミラノ市とボランティアサービスセンターの共同によるボランティア促進事業が活発化しているという。

6. おわりに

次年の2019年には、ガスパリ広場、ポルタ・ジェノヴァ広場（図表11～13）、スポレト・ベニーニ広場が新たに整備されており、2019年12月現在、第Ⅱ期の広場整備に向けて公募をかけている最中だという。本事業が開始して、1年以内で計10の広場が整備され、既に65の提案書が寄せられているという。

本取り組みによる最大の特徴は、第一に、暫定的且つ低予算で抑えることで、通常、広場の新設に要する提案・設計・建設手続きの工期を短縮化できること。第二に、地元のコミュニティと協働で、敷地を特定し、コミュニティのニーズに合わせて再設計できることが挙げられる。第三には、全米都市交通行政官協会（NACTO）といった国際的な知見を共有する組織が効果的に支援している点も大きい。今後の展開にも目をひらき、都心部以外も含めた公共空間の再編の可能性とその課題について理解を深め、参照していきたい。

(せきや しんご)

主要参考文献

Piazze Aperte in ogni quartiere, Avviso pubblico per la presentazione di proposte di collaborazione, ミラノ市役所, 2019